



# 序 文

阿波学会会長 石 井 愼 義

今回美郷村で総合学術調査を行うに当たっても、様々な点でその成果に対する期待で胸がふくらんだ。

美郷村の産業は、江戸時代からの鉱山跡があることからわかるように、かつては鉱業関係の部分もあったようであるが、現在は、梅や柑橘類の生産地として知られ、農林業が中心である。そのためもあって、森林や河川にかなりの自然が残っており、ゲンジボタルの日本有数の発生地として、国の天然記念物に指定されている区域もある。果たして残されている自然の質はどのようなものなのであろうか。鉱山があったということは、地質の上ではどのような特徴に基づくのか。

改めて言うまでもないが、美郷村は、徳島県の中央やや北寄り、吉野川の支流である川田川とその支流の流域に広がる山村である。今でこそ村の中を立派な道路が通っているが、川田川が北に流出する地点以外、周囲は山で取り囲まれ、かつて隣接各地域との交通の多くは、峠越えの道を使うしか無かった。それだけに、民俗、言葉などにはこの村独自のものがあるのではないかと、周辺地域の影響はどのような面に、どのように見られるのか。また、素人目には素晴らしい物に見える建物、段々畑などの石積みは、どのような価値がある物なのか。この地域は、南北朝の頃からしばしば歴史にも登場するようであるから、建築物、遺跡などに見るべき物が残っているのではないかと。さらに、近年開通した立派な道路は、人材を始め、多くの物の流出を引き起こし、ここを単なる通過地にしてしまう、などは杞憂に過ぎないのか。

これらについての調査は、今年の夏を中心に、20班、135名の多くの調査員によって行われた。ここにその成果を発表させていただく。

今回の調査に当たっては、教育委員会を始め美郷村役場の諸部局の方々にもいろいろとお世話になった。また、多くの村民の方々のご協力、ご支援もいただいた。ここに心からの感謝の言葉を申し上げたい。村民の方々から頂戴したご意見、ご質問も、本報告書の内容に反映されているものと思う。

この総合学術調査の結果が、美郷村民の方々が自分の村を客観的に眺め、改めて自分の住む地域について考えることに寄与し、目前に迫った町村合併後の美郷地域をどのようにして行けばよいのか、どう発展させるべきなのか、を論ずるために役立てば、と期待している。

猛暑の中、あるいは年間を通して調査に当たられた調査員の方々にも、改めてお礼をいいたい。いうまでもないが、今回の調査で、美郷村のことがすべて明らかになったわけではない。人員の関係などから十分な調査が出来ず、どうも心残りだということがあるやも知れぬが、今回の調査結果を今後どのように活用するか、をお考えいただきたい。この調査をきっかけに、さらなる調査が行われ、この地域についてのより深い知識が得られるようになれば、いずれはその成果も、この地域に還元出来るであろう。今回得られた成果が世で生かされ、調査の苦勞が報われることを期待するとともに、この成果で示された内容が今後どのように変化して行くか、を注意深く見守ることも大切である、とも思っている。